

北方四島から学んだこと

えりも中学校 二年 田中 恵菜

歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島。この島々の返還を誰もが求めている。私もその一人だ。北方四島返還こそが私達の、日本のためになると今までは思っていた。

しかし、占拠しているロシアは、意地悪で占拠しているのだろうか。そうではないだろう。漁獲量増加を願っているのは日本だけではないということは、忘れてはいけないのだ。私は最近、北方領土を世界の観光地にすれば良いと思うようになった。もちろん島々は日本に返してほしい。その上で、ロシアと様々な国の人を招けるような観光地を作れば良いと思う。その方が、北方領土を開拓した私たちの祖先も喜んでくれるのではないだろうか。又、元島民の方々が一番島の事を知っているのだから、そういった良さを全国に広めていけば、もっと良いことがあるのではないか。

私のような考えではなく、ただ北方四島の返還を願っているという人もいると思う。そういった人のことを思うと、やはり日本への返還を求めてしまう。ただ、私はそう思うだけで、何もできない。中学生の私に、何ができるのか、考えたこともある。考えた末、こういった作文という形で一人でも多くの人に自分の考えを伝えること。国や世界について沢山学ぶことだと考えた。北方四島を再び日本の領土にする権力はないが、色々な人に国の問題と向きあってもらうことはできる。そういった人を増やすことが、私のしなければいけない事なのだ。

又、私たちの祖先に感謝しなければならない。とても美しい北方領土を、開拓してくれたのだから。開拓しなければ、今のような深刻な問題はなかったと思うが、開拓しなければ、あのような美しい景色を見ることはできなかつただろう。

北海道に住む私だからもっと他人事にできないこの問題。解決策は必ずある。

そう信じて活動していくしかないだろう。

北方領土を返してほしいという一人一人の思いを、「強く」「大切に」していけば、いつか昔のように戻れると私は思う。

様々な人が暮らす世界だからこそ、理解し合わなければならない。様々な人が暮らす世界だからこそ、沢山の意見を受け入れなければいけない。今の北方領土にかかる問題で、私たちは学び、考え、様々な行動をとる勇気をみんなが持てば、結果が出ると思う。

北方領土に向ける思いの強さが、北方四島返還への道につながるのではないかと思った。